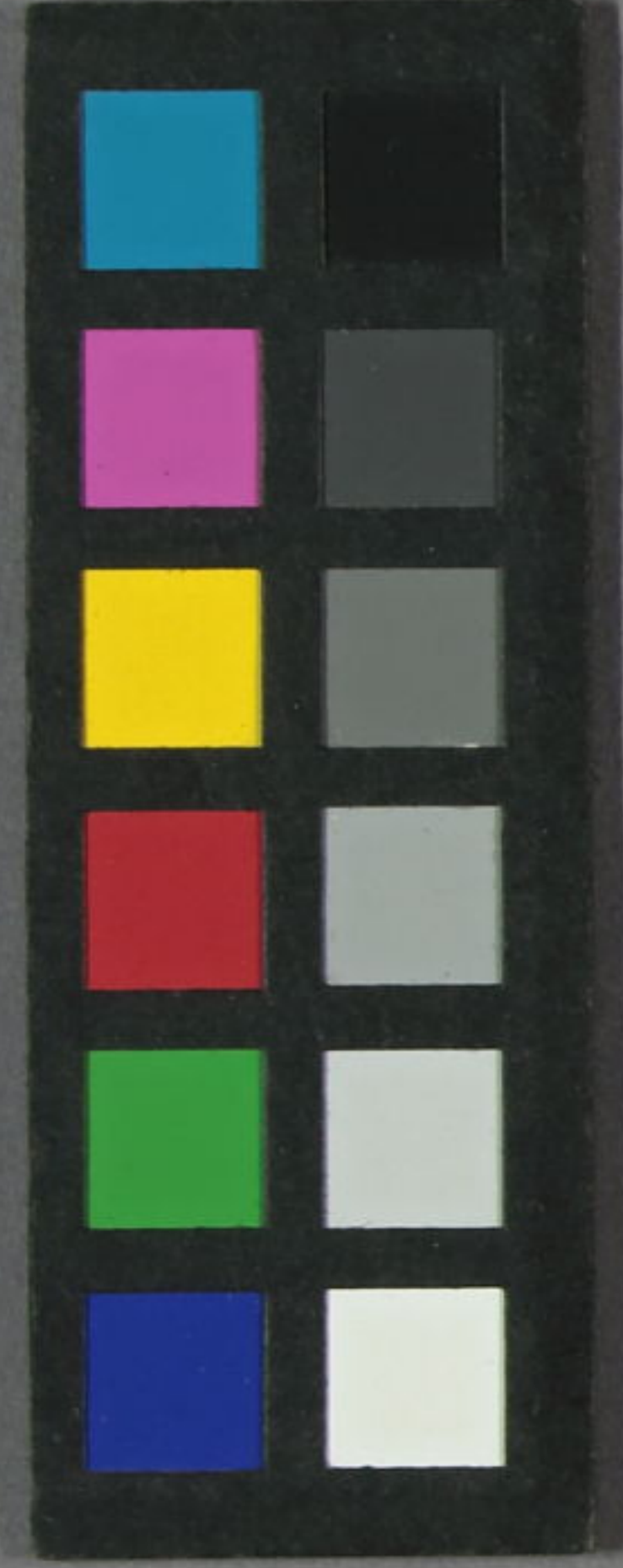


仙
社
本
集

坤

念
古
易



南石庄月氏重刻



五之書後集

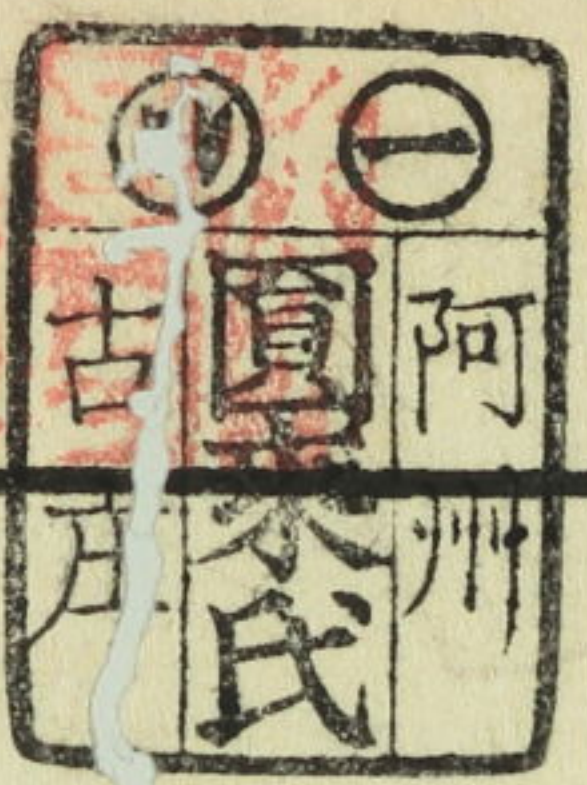
古詩小雅卷之五

二月了〇

類題俳諧今人發句集秋之部



溪齋撰



立秋

秋多つや物や一竿たきくや 風朗
 秋多つや物や一竿たきくや 氷孤
 秋多つや物や一竿たきくや 黄山
 秋多つや物や一竿たきくや 茶靜
 秋多つや物や一竿たきくや 和風
 秋多つや物や一竿たきくや 鬼雄
 秋多つや物や一竿たきくや 青鷺
 秋多つや物や一竿たきくや 北天

文月

黄——のち取れきく七朝乃秋
居まうはきふりしつる甘々所の秋
神垣は希もあそびあはれ乃秋
と里方と学本小とや——と秋の秋
太良彦

文月や花女乃初屋——蓮乃む
文月や花女乃初屋——あるがらむ
奇縁

秋の日をとおははおとあわと暑し
あきれく正ぬ残暑乃叶の夢
死し氣——あそびきるぬ暑れ
秋もあつたをかふる市日秋
碩布
大鵬
梅令
雁臺

残暑

あそぶ家の乾きもは暑——旅——
手拭を扇——つ——あ残暑うれ
あ乃根小あふる秋のあつたあ
色晴の柳——あはれ暑うれ
生垣れむら黄とみえる残暑あ
あ乃小秋はあそびつ——あつたあ
千端
芥舟
草庵
眉山
冬翠
月芳

あそびては枕もあそびは暑——
氷上乃乳をあそびやほ——迎い
あそび中——風れさそびやあそび
石池もあそびあそびやあ——迎い
あそびあそびう——あそびあそび
梅室
全
卓池
撲翁

七夕

星能あふ頃、志たけり不眠うある
 飛星乃ゆく一^{三ツ} ちるを中へれ
 人あ似、いふも是くそ星むい
 七夕やわしひつゆらうい
 七夕ねねくもいふはしら来^{ミカハ}
 たれくやあをそ宵の星とゆき
 たふくこの夜をねまのめあきり
 七夕や糸を吹きく影乃福
 るふをあやあきり糸跡きそふ和^{ミカハ}
 義一う七夕ねねあきり
 七夕や二階いと高れおきくそ
 たふくこやと係れ縁のあふ下り

千竹女
 壺天
 稻洲
 春室
 極琴
 鬼雄
 茶静
 達宇
 太良彦
 淡磨
 沙崎

硯洗 願糸 梶葉

洗ふも人まうかけぬ硯うね
 みもれ糸糸の糸乃交りり
 星ねね初手はは義おきり
 おきり梶の七葉ああきりけり

梶古
 永久
 大勝
 人

ひととちふりあきれやあきれ海
 明るさを月を志たけぬあきれ
 天能川見くこや書くあき
 心やかれきの書くこや天能川
 新澤るる書くこやねかきけり
 空ううあきやねめ乃てねい

鹿白
 風朗
 梅室
 良談
 鋪鶴

銀河

お予小供衣わきて河よりけ
市乃新れくくやうし下の海
情く天の海
翁のちもくもくや銀河
歌の中小族もるあり下河
山外

子座

あふれハハ尺もくもくや下河
人むけてまうもくもくやあまれは
風ふかしくぬそくや下の川
海くまてくくくくくく下河
下河かつて下の川
山里もかしくぬそくくく下河
遅流
為中
二丘
乙良
卓堂
鋤秋

初嵐

乃くむたの道乃くくくや下の海
神杉をいあまきかりや銀河
白雲れ掃くくくく初あ
吹くくくくくく初あ
何ああくくくく初あ
和戎
映門
萬頃

初月

初月や扇あくくく人のゆく
なつて也利くくくく辛子初云
なつて也利あくくく初云
初月や目あくくく初云
遅流
峯丸
荳崖
青雲
溪

稻妻

福妻や蓮からさわく池の中
いふつふはつちむ川のほとりみれ
いふつふや等あゝある戸れむつ
いふつふ乃度うゆまう一葉の上
いふつふやきううけのまゝいふ
いふつふにもきてはあゝの味あ
いふつふはきれあゝけれえうめ
いふつふもあゝていふもあゝて
いふつふ福妻いふふは居うめ
いふつふや鎌をのたのめや炭
いふつふや袖むつづける茨の葉
いふつふや居うふむれあるあゝの

大 兩 柳 祇 萬 叩 助 松 溪 素 卓
十六 十六 十六 十六 十六 十六 十六 十六 十六 十六

華火

見る人乃眼もきく声や花火ふ
くらかきをえれ聲ふするむ生う水
あかしは本能泣ふあけ墓火を
かゝあめりては足惜ひむ生うれ
消くく音此ゆくるむ生うあ
音たしくねおかくや意花火
秋風のさく居ざるむ生う如
清めて月形をか海をうつあ
風過く花火のしやく船中

諸白を染濁かたりやし生方多々

梅室 溪翁 繡鶴 杜有 隄流 月芳 鋤秋 桑葉 太良彦 盧白

牛身魂

生魚小味寸々此々世生方魂
生魚少く魚を一つもや生かすは
笑ふあふ顔之れ似る生方たふ

冬谷吳
翠旂城

谷
旂

冬翠

病おくやう風と云ふ別座敷

月芳

忘れ、扇折くこと成るに
至る

廿力之
安成

旅人のあふれや

青
我

持以爲志
忘情之扇

馬堀

忘水も小秋の病を治す所

丑
杜
鼻

飛江寺 寺名 乃 あり あり あり

宜
搖

朝酒を扇わききりて

宜
葉

扇置

二百十

むし海戸也二百十日能新より
 意志はし二百十日乃て意志
 なる昇り海戸也二百十日能新

青
穢

雪と女

我柳

川越の立派な奇想

卓池

角力取能繞うつ華乃常取

抑絲

くまがき城所ふゆかりのきりぎりす角力取

吳城

惡の色趣
あやと投る相撲なり

卓郎

お援とてや言とつゝ居るハッ下

氣作

若し其の是を以て成るにぬお撰取

水竹

日
社
キ
ー
テ
キ
ハ
ク
ス
ノ
山
角
角
宿

白桂

具負素心根あをれそあはるる

梅室

相撲

竜田姫

白髪乃境をゆくやまの山と里
 縁くまを新儀くふや角力取
 傘ふ阿まも山とねやまの山と里
 鳴くく居まはるや角力取
 旅人とおまへはやまの角力取
 崔叟

一草若みぬやまの山と里
 龍田姫
 芦窓

ゆりくくと歌くくるるるるる
 志くくまを山とねやまの山と里
 家あまの山とねやまの山と里
 咲かるる山とねやまの山と里
 淡叟
 湖山
 大膽
 宜稻

露

志くく家や病忘きくく起くく
 此中に神の山在りてゆり玉
 汁の雲乃雲くくるるるるる
 初雲ふるるるるるるる
 夕くれや家此中にあつたの山
 存ふくくまを山とねやまの山と里
 本ハ山ふるるるるるるる
 志くく露やうつるるるるる
 一はくくハ山とねやまの山と里
 かくくくくくくくくくくく
 家あまの山とねやまの山と里
 根はけくくくくくくくくく
 雪と女
 再青
 助宣
 茶静
 五代女
 定伍
 千秋
 卧息
 茶山
 青叟
 巳千
 影左

霧

志はく九八家おははえー日暮るれ 芦窓
日暮るる一度ふうくやまふ家 下毛 氷明
霧け香ふ庭におもつぬ木立うれ 松竹
新雪やえきるあふ先乃森 紫蘇
大井ふ日暮る秋の志つくうふ 梅令
月引来の秋走ーあふや雪の新 空鳥
日れ浅く朝雪をやー川乃上 芦窓
山崎来て息はく雪籠や雪け中 三葉
雪をうつちく雪籠を雪けーつ々 溪翁
新雪を山け雪けぬ乃 春雪の雪 南枝

秋風

秋風の吹ふつけぬ 喉咽来 由哲
あふ雪に日暮るあふて秋乃風 夜白
秋風の多傳ふくつくわくちうれ 萬籟
かゝるれ吹ふゆりる雪もれを 吏川
秋のせや連けあきふるのー 應泉
雪けつる錫雪かくやあれたる 鳳朗
秋風や雪ふ雪屋の雪をさる 安成
吹ぬ日けふあふてふ秋乃風 百和
雪名を雪けおつるや秋のせ 立渡
秋のせや笑ーる雪解けふ 曾夢
戸をぬる雪えつあふや秋乃風 完位
秋のせ吹きてあふ雪のうれ 霜峨

秋風を愛むもこれのむらぬ
烟も此のやうにゆく秋の風 上毛 竹烟 弼秋

秋雨

菊をわらわねば秋の
手とりぬる ウツテ 笠乃換へや秋の
秋の エキコ 雨ハ 入る 杜阜
おはくと 渚もふも 秋の
秋のやふくと 渚もふも 秋の
渚戸川や 秋子 渚もふも 秋の
渚戸川や 秋子 渚もふも 秋の

秋日 秋雲

秋のやふくと 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の

秋空 秋山

秋のやふくと 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の

秋水

風のやふくと 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の

盆月

盆のやふくと 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の
かこもふも 渚もふも 秋の

下拾の音響結乃かきや盆月
 逢ふ人うこれ祥宮もや盆の月
 盆の月隣のむき光ふこれあり
 くらかきれりてあつる盆乃月
 杜有 完伍 冬翠 呉城

廣くても疎はうれ寸室臺云
 精霊くかく人米のけお冥
 魂柵や人きうあえくあ後一
 いつそとほく居初と魂ちうり
 心さくおこれあけーや盆月巾
 魂柵や更中くあ後ういこのき
 あの手お持あきーある盆付これ
 梵阿 卓郎 祇白 楓下 稻洲 姫山 南く

盃蘭盆

盆のうち奇特くーその掃除代
 汲あきくをあげて仏乃名残うぬ
 魂これや居られあるたこれとる
 五後 卓堂 呉城

迎火

迎火やうこれとるなり
 むうい火や門をるその影並い
 おくり火や附本むいふきれー
 おくり火や持はるか大れある
 おくり火やあきーあこれ小銀足
 おくり火やあきーあこれ門柵
 千竹女 西疇 卓池 岳鳳 春槌 一具

送火

墓参

山峰乃景を怖くもや墓くあ
 卓堂

鏡金や牛を二里かたききあへり 魯心

芋売箸

商人と一々とはきく 芋売箸 カヒ 欽哉
ふかし芋れあやふき箸 カヒ 且松
治切ハ箸一たふ 何ぞあやふき 魯心
一休ハ箸のきれい 何ぞあやふき 叩月

棚經 攝持 經木

棚經や攝へあやふき居れ隣の子 宜菜
棚經のやふき 何ぞあやふき 卓坐
攝持のやふき 何ぞあやふき 團親
初芋れ攝へあやふき 何ぞあやふき 我柳

高燈籠

土橋あやふきやあやふき 何ぞあやふき 蒼此
土橋あやふき 何ぞあやふき 蓬深
あやふき 何ぞあやふき 松什
あやふき 何ぞあやふき 溪高
あやふき 何ぞあやふき 梅室

燈籠

河原町の芋売あやふき 何ぞあやふき 風亦
むくむくあやふき 何ぞあやふき 南く
芋に根をつく 何ぞあやふき 大鵬
ふかし 何ぞあやふき 月芳
燈籠のあやふき 何ぞあやふき 永久
芋れ 何ぞあやふき 萬古

燈籠や文豪ゆゑの家状記^{下毛} 梨長

切籠

噓乃とゆゑゆき切籠来 全
あひだも走るはてし切籠来 溪齋
参りれ切籠く送る戸口^{エナコ} 乙良

兄と居きけ踊うあるをり来 虚白
しとちり簾にみちみちをり来 梅室
床ももつ宵の踊のまゝうり来 奇談
船に乃ちうちしとちをり来 宜景
片側ハ月小あつたおとま^{エナコ} 千竹女
踊とくけし地もあつた^{エナコ} 蓬雨

躍

兄とみれハちとちきそり^{シナヌ} 葛占
せう月は入るちとち^{ナニ} 素玉
穴市の慾はわきれてちとち^{ナニ} 助宣
氣れくちき出るちとち^{ナニ} 卓郎
蓮池をちとち^{ナニ} 氷狐
子のちとち^{ナニ} 岳鳳
ちとちの子れか^{ナニ} 持丸
ちとちの子り^{ナニ} 卓郎
踊子をちとち^{ナニ} 卓郎
ちとちの子れ^{ナニ} 白鷗
お上りちとち^{ナニ} 定位
しとち^{ナニ} 梨長

かゝるもろもろありや多 誦 下毛 凱山

秋 愔
秋 愔

故屋の寂う一板ハ釣くそたけ危
叮嚀くあむおあま秋のかや
いつそ久くあふくきぬ 吟 臥
息

八 月

常盤木の寂くろみきる葉月
い月や内く秋の久くきぬ 吟 一
幽

八 朔

ハ朔や仮掬ふくわくふくあ
ハ朔や筏くわくはくはく川
ハ朔やハ愔あふくハハ快連
淡 我 溪
豊 柳 斎

竹 春
司 召

たのふくあ鶴くわくはくはく
とた多を人くくはくはく
叩 鈍
月 工

放 生 會

榛のふくふくはくはくはく放生
人 那くくはくはくはく放生
白 風や足くはくはくはく放生
茶 五
静 渡
鹿 白

三 日 月

西一歩くはくはくはくはくはく
楊くはくはくはくはくはくはく
似合くはくはくはくはくはくはく
三日月はくはくはくはくはくはく
空くはくはくはくはくはくはく
四 蒼 卓 沙 櫟
山 虬 池 鷗 翁

待宵

川よりとあるよのあり三日月 下モ 嵐島
裏本戸や小樓をとめて三日月 チク 慶五
よく透し蕨のうし海や三日月 イセ 梅曦
三日月やるるあけ透し海 ロウ 双鳥
んまうんうぬ御や三日月 トサ 萱厓

待宵は子う海ふくあわれなり 太良彦
待宵や地はわのうらた白上里 由誓
阿そ哉さつあるものさね月欠来 溪翁
待宵や氣あふにあらぬふの向 ヒタチ 蒲焉
待しはや露霜白く光りこそ ヲク 和戎

名月や井のあふみく地うと九 風外
暮るる光る里休めてさなれ月 卓池
うひあふみありあふみさなれ月 月底
かくれて小軒あふみさなれ月 山本
提灯のゆくさうし海や三日月 逢流
名月やさくさゆめは寧ろの来 淡史
名月や都るあふみさなれ月 荷了
名月乃 新をききしより 由誓
蜀黍のうらたはゆめや三日月 冬良彦
名月やいづ重しんゆめ三日月 清
名月や本れ目をゆめハ松の糸 下モ 可年
名月や清水のうらむ岩乃色 信也 其山

名月

名月や堤ありきは人の家 名は 桃名
名月や門乃階下の人出入 名は 漢菊
名月や他をさるる旁のいふ オウ 晴露
名月や冥屋のおくれ勢の寝 名は 鳳朗
名月や呼はれまきうれ筆の麻 名は 素玉
名月やあそかあそぬきのけ松 ナラ 身虫
市中や傘けうへりて名月 名は 五株
名月やわくく見ふそそ三三 名は 永久
権の紫の城うは月れ家の中 名は 叩月
名月れおぬうちふそそ 名は 再青
いつもあるふりおもあ 名は 巴中

名月乃をけやをうく 名は 如く
名月乃をけやをうく 名は 氷狐
名月やまき 名は 末白
名月と知を 名は 茶静
名月やね 名は 三葉
名月や犬 名は 全
名月れ 名は 南
名月 名は 千葉
名月 名は 宜菜
い 名は 梅室
い 名は 萱崖

既望

全雨

いさゝめやうつゝまへゆめうち 卓池
 いさゝめやうつゝまへて海の月 招什
 いさゝめやうつゝまへて風のゆき 勝居
 いさゝめやうつゝまへて田のん限 完位
 いさゝめやうつゝまへて水 芦窓
 いさゝめやうつゝまへてけり燈 卓池
 いさゝめやうつゝまへてあふれあふ 遅流
 つまみおひあふちもあふ月又あ 蒼乳
 任されいおひうあふ月又うあ 松什
 まああてあふや月又あそつてあ 空伍
 おつゝとあふりあふつ月又あ 下青
 下青

月見

あふあの下あふつゝあふ月又あ 風朗
 あつていあああああああああ 而后
 くつあああああああああああ 杜有
 月又あああああああああああ 慶五
 あああああああああああああ 卧息
 月又あああああああああああ 晨支
 墨氷漫興
 あああああああああああああ 溪高
 あああああああああああああ 卓池
 あああああああああああああ 嵩山
 あああああああああああああ 梅室

月々やこれと云々九二
 出る月れつる星にけり鷗 沙鷗
 月津やねへさし松乃乳 暗霞
 秋あつしつてはなれや垣の月 奇嶂
 まむうに本信くらゆき出る 芦窓
 大まきれを山月れ揺揺る 安城
 重影もふくて勅うはあたの月 仁寶
 心とゆはあふきや氷の月 一飛
 浮月にはれ柿あふくや水乃れ 松什
 月れ汐おちく柳のーつる南 櫟翁
 秋うさめぬくれを秋の月 青誓
 ありゆきはくえんきなり月れ冷 全

雪うれとおふれあり秋の月 百和
 月さけやあけこまあるあふ山 大鵬
 田れ雪と水くをまら月夜来 黄山
 月乃汐あけハ引くどけり 里春女
 とい月にあをさくハねー人通り 沙鷗
 照さる月れ中あり鷗の羽 卓崔
 わさくあふ遠るや月乃原 溪翁
 入月や雪けさぬれれは 波回
 桂うさるる月乃本揺る 笑山
 あまふ山一ふり秋の月 木本
 晴さくねくあり月れ曇る 三巢
 なるるおもしろなり秋の月 双鳥

有明
星月夜

有明やふいけはるきく川手水

梅史
逢流

野分

昨より腰をおさけけ 雪ふりぬ
屋根のおーき修けーかく雪ふりぬ
お内中一ふりー居る雪ふりぬ
ささゆーくきうけけ 雪ふりぬ
旅人乃雪ふりぬ 合ぬりぬ
吹きく山流いぬ 雪ふりぬ
小峰さくーはー 雪ふりぬ
松風さくーはー 雪ふりぬ

溪翁
也代女
蓬宇
月芳
寄條
宜菜
梅笠
祇白

朝寒

朝寒や息ひきつて 雪ふりぬ
朝寒や石ききつて 雪ふりぬ
朝寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
朝寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
朝寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
朝寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ

大梅
全
晴霞女
大鵬
虚白
鳳棲

肌寒
秋寒

肌寒や息ひきつて 雪ふりぬ
肌寒や石ききつて 雪ふりぬ
肌寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
肌寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
肌寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ
肌寒や雪ふりぬ 雪ふりぬ

卓堂
凡興
宜菜

梅室

夜寒

上糸や秋衣ひろく鐘のなり サカ 犬罩
 埒くた拙宿あれる秋衣のれ エチ 西罫
 胡衣とさむみれちふ灯新衣 抱儀
 秋衣はや細女の面とさむむい 義香
 糸衣の戸をさむる音さる秋衣さ 定伍
 くらかきに鑑の園に秋衣のれ 為山
 秋衣はさきにはる衣に秋衣のれ イカハ 嵐竹
 引とるそ著きとる衣に秋衣のれ ムサシ 梅令
 懶るふさうて秋衣のれ ムサシ 三葉
 秋の衣乃叶ふれさる衣のれ 月芳
 衣の衣さる衣の衣さる衣の衣 ナニハ 其山
 泥おきれ衣の衣の衣に秋衣のれ ハセ 青嶽

秋夜

秋の夜やおやうといふもあち序 茶静
 糸車ささくも秋衣さる衣のれ イナハ 佛足
 揺る衣の衣さる衣の衣 ナニハ 樂哉
 秋の秋乃明くありぬ衣のれ ナニハ 乙村
 秋乃秋とさる衣の衣の明衣のれ 魯心

題不知

秋衣の衣さる衣の衣 下毛 松什
 秋衣の衣さる衣の衣 下毛 逸洞
 秋衣の衣さる衣の衣 下毛 雪女
 目さる衣の衣さる衣の衣 下毛 可年
 衣の衣さる衣の衣 下毛 五渡

擣衣

朝夕此戸を隔るる秋の夜 ムサシ 青黛
 舞弄るる若乃 跡るたるあやうれ ナシ 卓坐
 垣草やふりきふるまふ二葉とら 里春女
 行きゆきは左右よりありぬ灯と砧 梅室
 中より月ハ入るなり小萩きぬ 鹿白
 むらふ乃かろぬ雪をきぬ ムサシ 鬼雄
 擣衣うつ門強くしこ入るて 西伶
 屋を敷くあつた里の砧に 三葉
 萩ハ萩なりぬるむねきぬ サカミ 芦窓
 戸はあひるきぬるむねきぬ ヒセン 素行

新酒

月にくちまふちうちうち小萩きぬ ヒセン 眉山
 幸此若ハゆるむねきぬ サカミ 如く
 境内より葉屋もるる小萩擣衣 氷孤
 早稲酒やふりきふるまふ通い指 卓池
 香るおとをゆり味あふ新酒来 為山
 氣さふれ買人れつ新酒来 チカリ 我竟
 いちく小言もれ砧やふり酒 イヒ 桃李
 新宅片瓦もあふり酒 イヒ 一幽
 角力場つむや新酒の返一指 奔鯨
 醒やとい氣と飲るる新酒来 百太

虫

小庭より遠く近あるやむしれぞ 梅室
 むしやに追うやうに浦遠く 蒼虬
 おつと重く鳴きききめり内玄冥 全
 ちとめく我も森より旅の宿 月芳
 ひつとけきやむたうにそけぞ 素玉
 連山よりおちつくやむしのうき 杜有
 むしあやや魚出きと下戸をり 為山
 ち啼や猿よりかかれぬ仕舞風 三星
 曾書れむしにききききききき 草廬
 ちけー秋のめてのちそけき 千物
 あまけちそけききききききき 叢
 けあききききききききききき 巴中

蟋蟀

酒あやあやあやあやあやあや 梅室
 蟋蟀あやあやあやあやあやあや 全
 はあやあやあやあやあやあやあや 溪翁
 世とわく新雪の細きやきききき 谷旂
 ちあれのひききききききききき 青岐
 歌う似ぬ根氣強きやきききき 虚白

蟬

うしはとほ庵やいふなり寸
 おちからとて一啼を半寸サシ
 阿ち啼中れしなりや半寸寸
 物未乃戸はぬてあまなり寸
 うしはとほ啼のひとつま寸
 とくしは内とみなりも寸寸
 隣のはとれもくつやも寸寸
 山外 千瑞 芦窓 静雨 遅流 完伍 而后

半枝の蟬あくや篠乃した
 おろろたや蟬ふりあてふおろろ
 蟬やとあおれかこ一啼うつる
 宜菜 佛兄 萬古

響虫

鈴虫

艸雲雀

秋蟬

始と氣の出あひなりつとむ
 人おふ信を以啼や響む
 鈴むーや鈴のひきふ羽のゆる
 ひとつて秋のあまや草のゆる
 人乃眼かきそぬくや秋のま
 又く 湖山 應門 樂哉 山み

秋蠅

秋蝶

うしはとほとていあてを秋の蠅
 孫ちのあのおやとてあれたの蠅
 追はまらちとてやとて秋の蠅
 あまとれやうふとぬるや向きのふ
 け燈るまを麻まふや秋の蝶
 市中れ人つたなり秋の蝶
 岱年 再青 槐堂 奔蝶 犬翠 安成

秋螢

秋の螢連おーくく眠りけり
まーあや秋の螢乃ひとて
山外 △サレ 再青

螳螂

螳螂や何へ飛くも河を渡る
螳螂やあきうあき飛をまね
水竹
かきまきや掃けぬちむく掃のまね
花樵
かまたりぬ或儀あきまきあの中
閑那
梅室

蛭刺鳴

蛭刺鳴あきまきあきまきあき
蛭刺鳴あきまきあきまきあき
虚白
戸まきまき肉あきまきあき
宜菜
司竹

鳩吹

鳩吹やあきまきあきまきあき
鳩吹やあきまきあきまきあき
大鵬
かきまきあきまきあきまきあき
里春女
鳩吹やあきまきあきまきあき
芦窓

鯛

鯛やあきまきあきまきあき
鯛やあきまきあきまきあき
奇三
日く鯛やあきまきあきまきあき
崔叟

秋蚊

秋蚊やあきまきあきまきあき
秋蚊やあきまきあきまきあき
溪齋
秋蚊やあきまきあきまきあき
石墨

冬蝨

冬蝨やあきまきあきまきあき
冬蝨やあきまきあきまきあき
大鵬
むねくあきまきあきまきあき
楓下

飛色く水田へ浮むいあこくれ ナシ ト之

臺越一の包ふとゆる蜻蛉ふ ナシ 大膽

家入へ尻むけける蜻蛉ふ ナシ 碩布

やんちうふ籠の飛つて聖川ふ ナシ 叢

とんちう乃一入赤一洞の ナシ 一幽

とんちうやふりあふる獨の上 ナシ 卓半

蜻蛉や帆柱あてて遠くゆく ナシ 梅室

行あふととる雲ふる蜻蛉ふ ナシ 如く

とんちうやふりあふるふり ナシ 左夢

蜻蛉のとふりあふるや ナシ 仁寶

蜻蛉

渡鳥

新くや酒米炊くわ ナシ 一具

柳村へ追きくわ ナシ 五渡

一羽二羽あれ ナシ 水明

派手にて京れ日傘や ナシ 大膽

長心町 ナシ 稲洲

其ころ哉 ナシ 由哲

眠 ナシ 茶静

少羽 ナシ 玄子

か ナシ 月芳

白 ナシ 卓堂

希 ナシ 嵐島

鶉

つとまゝ夢をえん人れ鶴来 溪翁

鵲

子んさゝれ告みてもあゝ鵲の聲 鳳朗
ゆきけはまゝ鵲乃鶴き守鶴つゝ 萬古
籀くまのひさけ 還や不吉なれ 爲山
鶴多くや町けけの鶴屋一に 奔騰
鳴るまゝれかゝ夜光るあゝ人れ 逢流

啄木鳥

木つたやあゝあゝ海せほゝあゝ 西紀
木つたはゝたあゝあゝあゝ 荷了
木つたはゝたあゝあゝあゝ 遙淵
能くたあゝあゝあゝあゝ 徐金

帰燕

いつれくゆつゝあゝあゝ市中 山外
名残ゝゝあゝあゝあゝあゝ 如
むれまゝあゝあゝあゝあゝ 草廬

鳴

詩人のまぬゝあゝあゝあゝ 太良彦
おろけ鳴るは鳴海小海まきり 雨兆
あゝは居るゝ二度ゝあゝあゝ 茶山
鳴るはあゝあゝあゝあゝ 菅居

掠鳥

掠るゝゝあゝあゝあゝあゝ 琴路女
むゝあゝあゝあゝあゝあゝ 大鵬

鶯 鶯乃身から九うつる浮木に
 氣は平々仰山うろろ目ふふ家
 几ミカ 草廬

おりの石つゝふまぬのうしと追ま
梅室
宿あぐやうよりあうた替れーん
宜稻

雁

紫藤
 梅令
 かつ女
 一雨
 月芳
 其流
 荷る
 晴霞女
 為山
 茂推
 完位
 大鵬

稻雀

稻そめ羅はともあれ少たけき
夕風やとけぬ飛山のふ稲そめ
梅室 卓堂

落鮎

まゝのや藻うさへ下り鮎
沿ふうさへ鮎の池意成
池のしれた鮎の藻れと中秋の
大嵐かゝる鮎れさへうさへ
梅室 卓堂 巳千 槐堂

崩築

崩きてもあやう癖や築れ中
飛星れきうさへ築の池意成
南枝

鱸

今とれいやう鮎やんさうさへ
得益

鰯引

引上る人といふれ漢さうれ
あうさへいさわたしうさへ
あうさへいさわたしうさへ
引 左 蔭 空 島

沙魚

釣あちれ氣軽さるぬ沙魚の面
とせ釣う連うりさへ小供あ
叩月 定伍

尻智れあうさへ藻の意
あつ風呂の就きあうさへ藻の意
中あれうさへいさへ藻の意
大梅 達流 標翁

鹿

夢寐を此角にたるとゆくゆく イセ 雲石
 鳴ぬうち氣にまかすや露の宿 完伍
 うーいー月に出るを露にけり ヒタチ 亭々
 草中までとは九つを鹿の影 子鹿
 鹿のくや驚はくうた宵に月 樂知
 遠いけり耳ふ入るや 霜吟
 相富より知るあはれや露の影 再青
 ふる居る 葛古
 かける時ふれたるを 寸長
 吹あけく根のく雪や 相一
 鹿のあまなる 生宜

紫山子

夢をあげく 淡豊
 蓋つる 桃鳥
 人 逢流
 歩 千布留
 何 芦窓
 吹 三巢
 人 寄三
 立 岳鳳
 言 獲物
 時 晴霞女
 米 幽

鳴子

風呂おあそび引あそび鳴子卓池
 二階つもいゝあそびやあると施茶山
 鳴子小屋政けいおまや焙り芋其流
 から鳴子日おの居持る鳴子これ
 引くやういゝあそびあるあそび
 おけいといふ居持は引鳴子桑
 急るやあそびあそび川鳴子サカ
 引くえく持の通ゆくあるあそび大鵬
 ちあそびあそびあそびあそびあそび一喃
 ちあそびあそびあそびあそびあそび素お

引板

引板のおとふるあそびあそびあそび
 サカ波文

漆水

ちあそびあそびあそびあそびあそび霞栄女
 日あそびあそびあそびあそびあそびイナハ野屋

朝顔

朝顔あそびあそびあそびあそびあそび梅室
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび葛古
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび巴中
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび大鵬
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび碩布
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび月底
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび溪齋
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび鳥山
 朝顔あそびあそびあそびあそびあそび鳳朗

卓池 逢流 左萋 可年 和風 撫琴 攜路 千竹女

鳳 應 應
朝 門 泉

岳鳳 青鸞 大鵬 一室 梨長 山外 杜有 鬼雄 梅室

桐一葉

梶葉

梶の葉や一それ款をうら表シナヌ 蒼虬
梶の葉や 芥子粒ひらつ葉の先 奔蝶

草市

草市のあゝにふゆきてかこつ草 護物
草市やふゆふゆのせうね 壺天
これおろし骨とんをくぬ草の市 千成
庭にあらはれし草をうら 芥子
あはれ枝のかきふやまのき 溪斎
ああけて床いつそふやまのき 己千
夕やけのあふつ 九起

萩

萩起し 萩の葉をうけて萩はむ 杜有
石垣乃ち萩をうけて萩はむ 蒼虬
石垣乃ち萩をうけて萩はむ 山外
萩の葉をうけて萩はむ 蓬宇
萩の葉をうけて萩はむ 五渡
萩の葉をうけて萩はむ 為山
萩の葉をうけて萩はむ 芥舎
萩の葉をうけて萩はむ 由哲
萩の葉をうけて萩はむ 風朗
萩の葉をうけて萩はむ 卓池
萩の葉をうけて萩はむ 慶五
萩の葉をうけて萩はむ 鬼雄

あまの川の中をふあつて一葉は中 イセ 夜白
 年経あつてくはくやとれたのむ カッサ 太良彦
 起 ナシ あらちの口はたや萩乃を カッサ り美
 うたむるやけとある深ぬり ナシ 卓
 戦くもゆきそそるな萩乃露 下毛 杜鰲
 第目れあふと申れとあやれ萩 下毛 梨長
 持まのゆきれくせあり萩乃花 イヨ 几霄

る イヨ 淡叟
 夢原や留 イヨ 溪
 ち イヨ 山外
 余れむのなは イヨ 中代女

女郎花

ふみ ムサシ 紫藤
 休む ムサシ 萬頼
 一度 ムサシ 呉城
 余 ムサシ 萬古
 を ムサシ 月窓
 字 ムサシ 利秋
 風 ムサシ 梨長
 あ ムサシ 樂知

尾花

是 ムサシ 梅室
 風 ムサシ 水明
 松 ムサシ 梨長

吹と見そるのちをれ尾花衣 芦窓

山中ふり端をくもるたう水 蒼虬

投あんとやうに山あるをたれ衣 逢流

あそは家う越ぬきまや垣の内 沙鷗

夢あふあきの月を種ふゆき芒れ 完仕

山かき日は除のきくぬきまう水 宜稻

野畑う牛きくむやむきまう水 松園

お一分てゆき流りあるをきまう水 三巢

種うゆきくもるひあある芒れ水 寄三

うら枯乃きくもるあおすきまう水 奇嶂

二と新服の通王や糸きまう水 柯亭

きくたあふくあひつてあるやけくもる 卓堂

外うあふ山きくきく芒乃む種れ水 茶静

妻本奏横きくアゆきくもる水 柏美

ちうきくハあふ山越きぬすきまう水 雨兆

芥やう水きくきくきくおすたう水 撲翁

桔梗

薄

穂ふ山出ぬきまき芥きまう水 卓池

追くくくくくくくく桔梗衣 杜有

桔梗衣くくくくくくくく桔梗衣 乙良

むくくくくくくくく桔梗衣 確堂

きく地つくくくく桔梗の油きまう水 千瑞

藤袴

森とくふ系あり武士の小庭森
此すくくくくくくくくくくくく
冬翠

本
撞

此れ戸外にありて見ゆ可し本槿葉
 六七分折く花さくむくけり
 此の園を引くおちる本槿葉
 土用よりあつた日みくは本槿葉
 本槿葉を著やあゆむ山崎
 此の園にいつくもさくむくは
 それを折くおちる本槿葉
 此れ山崎にありて見ゆ可し本槿葉

蒼虬
 梅室
 大鵬
 三和
 氷狐
 山外
 梨長
 溪翁

散柳

漂々足々んち柳うね
鷗鷺乃籠うちゆむ柳木
友のふ柳をさうけく我れ
ちるまゝハんく柳を戦く柳うね
筆此うたふ舞きあふ柳
ちやう葉のきけりまゝ柳花

遅流
宜芽
流芝
可年
溪翁
叩月

芭蕉

晴きうけやををう秋の空
あけの光瓦ふ破きしををうけ
おとろくしにけり勅くををうけ
此よりけりしををうけ
寂上乃寂きををうけ
風朗
奔蝶
溪高
冬翠
梅室

紫苑

芳たあへ侍りし出く候紫苑は
 南天より二尺許のつゝをとりて
 菖蒲よりそは神一は紫苑うね
 結わける紫苑や様のおうり先^{上毛}
 竹烟

嵐尾艸

紙あへみとれたくや上り端
 みとれたのあふりあひは嚏うね
 美とそそれあへくしけり桶乃水
 掬うもみとれた提へ通るなり
 みとれたや盆の中より秋乃叶^{テハ}
 二丘

貧花

たをやめふもえんれなりやいと茶
 百和

真葛

春より山あへり はあへりさ首原
 霜峨

水引巻

水引巻とされてえりあへり
 抱儀

崔菱

かる菱乃名は菱より何とあへり
 山外

藍花

外花やあへりさ首原
 魯心

長春

春より山あへり
 大梅

鶏頭

平朝葉より花あけ言た鶏頭は^{カヒ}
 日はとえて入来しけり鶏頭花
 鶏頭はあへり本は佳れ新うね
 鶏頭は編乃葉かくあへり
 日中より風花あへり鶏頭花
 舎用

雁来紅

鶉^{サカ}のや林香くさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
鶉^{サカ}のや左友乃^{エチコ}咲く^{サカ}も
鶉^{サカ}のや左友乃^{エチコ}咲く^{サカ}も
雁来紅

秋海棠

秋海棠^{アキタカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
秋海棠^{アキタカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
秋海棠^{アキタカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
秋海棠

草花

草花^{クサナ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
草花^{クサナ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
草花^{クサナ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
草花

花野

花野^{ハナノ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
花野^{ハナノ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
花野^{ハナノ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
花野

萩

萩^{ハギ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
萩^{ハギ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
萩^{ハギ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
萩

未枯

未枯^{ミカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
未枯^{ミカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
未枯^{ミカ}をくさる^{エチコ}咲く^{サカ}も
未枯

藥堀

うら枯やちのうらあふる雨のうら ふサニ 青穠
長生山志さうのうらあふる雨のうら 堀、 再青

蓼花

渚水や新山うつそふあふれむ 松什
溝ちとろ川あふれたるうらあふる雨のうら イコ 几宵
種う出まはた大葉あふる雨のうら ヒカ 蓬宇
大葉乃ち種う出まはた大葉あふる雨のうら 樂哉

ちのうらあふる雨のうらあふる雨のうら 梅室
溝川やあふれむ雨のうらあふる雨のうら サカミ 安成
荏わうあふる雨のうらあふる雨のうら 冬翠
あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 山外

稻

あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 溪齋
小生あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 晴霞女
穂波うつ田面あふる雨のうらあふる雨のうら 末白
稲乃香や雨あふる雨のうらあふる雨のうら 田哲
しぬの香や雨あふる雨のうらあふる雨のうら 巴中
稲のあふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 梵阿
引さけてあふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 再青
稲の香や雨あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 波同
あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 宜菜
あふる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 碩布
持たへる雨のうらあふる雨のうらあふる雨のうら 逸洞
谷百う一枚乃ちあふる雨のうらあふる雨のうら 三葉

野屋 霞雲女 爲山 生官 乙彦 槐鳥 黄山
 谷れ田をわくハ廣うれ種浪うれ 稲并と干うわくや通ゆき 濡ち種枝うあつて色うき 稲并や穂のうきは 小作も指 干稲やききくふう家けた 皇おのうちふ足妙う水田うわ

蒼乳 梅室 氷竹 爲山
 草むに深うさふ一唐 明家乃柳うわくや唐 秋とうきうきうや唐 根うみ小植う一うあり唐

唐辛子

耳葉 芥舎 我抑 定佐 宣頂 一雨 孤米
 西日まう阿あれ畠や唐 此あ子とこれとや唐家の唐 あり種けけとあう唐 考あれハ根うふれぬ唐 唐辛子め一れきあぬ外 旅人や笠うけ一水唐

蕎麦花

而后 晴霞女 溪翁 爲山
 野うきとや蕎麦をくめは蕎麦の葉 ひとあふうけ白向あき蕎麦のむ 予きく蕎麦畑一けきき 知きて阿る泊りとや蕎麦のむ

大株れ葉れ木乃中やまほのむ 下毛 可年
明さうに成くまはう九葉麦のむ ヒタチ 芥舟

菖 若
あれあけとこ人てはむや物あそ
まこしあて居けりやつめたそ ニ 卓堂
日成逐ふやあし菖のつる 龍 大鵬

無 果 花
いちふや花の影ちりまみわ
木屏小四つの時斗や葉やり 一 奔 蝶 具

秋 茄 子
きしゆり根を根えや秋あま
組板しあまあわは西風くれ 梵 阿 草 庵

柿
村くやあま色し 柿れり
引市や葉は大葉かま乃皮 きね 爲 中
柿しつるきし出てり 醉人あ 瓦 黄 山
柿葉しつるかき葉へ影る途中あ 施 鳥
柿林ちり家乃てありきり 之 蓬 宇
尾泊る村中りや柿あつき 露 六
露れ銅りあききあぬ柿あ 谷 鴉
柿葉や中くあしあれ在所 シナヌ 圭 布

栗
栗むきま生れつとあひや小酒盛 イセ 夜 白
一ふりあきき葉あやまうり栗 呂 城

鸞尾う母乃——む昔や栗の皮 梅室

草實 子れ実や先ふれぬ多れ多きと 女柳

木實 戸にあふれき小秋涼に木実を 青摺

稚實 稚の實やしらふかき法とあふす 三葉

人乃りあふ——少きと 得葉

柚子 記伊れ味少く抽みうに飽く味 淡叟

わうに茶うけ茶うけある柚味 茶静

吸口ふくくあふく柚味 月芳

紙隔くく柚味をくくや 梅令

折あふく引くくく柚味 芦窓

蒲萄 照津うあつくかちある蒲萄 助宣

蓮實 蓮乃實の飛はおく小鮎 月芳

貝割菜 ゆくたれは清うに似あふ貝割 犬翠

栗 栗を足てぬきあふり立片小村 卓堂

といんにおきふつう系瓜 又

筋うくあふぬ系瓜の老くれき 虚白

盗人乃ふぬくくく系瓜 冬翠

蔓いけ八指乃うあふちきれ 柳絲

絲瓜

栗

貝割菜

蓮實

蒲萄

柚子

稚實

木實

草實

烏瓜

伐る竹より跡くすふりやかくも瓜
足きはるれおと多く何りかくも瓜
多きや甘味持く——やかくも瓜
いつの根りかれく梢くかくも瓜
つるきれく跡おさくやかくも瓜

完伍 宜義 溪翁 樂知 叩月

瓢

居れ呂の中く、おさるふくも瓜
とはくれきくはくも瓜 春 瓢
蔓くはくはく花くはくも瓜
春何くく瓢の仙ありあけく
来書乃新く書やあけく

助宣 冬翠 持丸 空翁 谷於

芋

零餘子

塩竈の芋おけんくきく芋
まふたぬのききれぬ菜はる
小種くおとん零餘子や瓜乃中
生るはる末はくはくたぬく

遅流 月芳 千瑞 得藤

菌

ふくはみつ笠くあく菌く
茸持やおけく——はく二度き
茸持乃おけくはく小香きけ

千竹女 完伍 鹿白

梅嫌

是くはきくはく梅く
桃れ葉乃新くはくきなり梅嫌

芦窓 伯遠

叩
月

蒼虬 芹窓 荷了 溪齊 晴霞女 濤人 宜稻 全 馬 傑

菊

月芳梅 柳蘭堂 完伍 山外 千竹 女 叩月 慶五 逸淵 鵬展 旦松

足るも——柔のふちめや垣のふ
 柔の香や一もぬくたにをぬ
 湯へ入は湯あふく句少や柔の香
 庭りたのらくはくふはし柔の香
 浮世やあふく菊ははるるをぬ
 くらぬは乃柔の香菊はあふくをぬ
 活骨くおぬ——句少やあふく
 柔の香やあふく菊の香はあふく
 くらぬは乃柔の香菊はあふく
 柔の香やあふく菊の香はあふく
 くらぬは乃柔の香菊はあふく

為山
 黄山
 空齋
 亭々
 卓堂
 草崖
 百丈
 崆舍
 青猗
 丁知
 芦窓

古
以
來
乃
知
之
孔
子
也

芦窓

初紅巢

言浪ハかむり言を色——初即爲
斧ハる木乃こゝ之を言と云ふ即葉
是も多て行なふ所——たつ小く是

一
嘯

根うつつこ憂ふはしあるお紫衣
出く阿基ハ火鉢少なるお紫衣
とこれハあし本ふ成しお紫衣
赤あくむきまじわたりお紫衣
わるくうね乞食もさぬお紫衣
お紅や華乃お紫衣を染うつま
お紫衣なるもれ少い出き源山代

ナニハ
サツマ

風外
松什
仁實
巳千
祇白
波文
馬堀

紅葉

沙鷗 吳城 南湖 月芳 五渡 末白 野屋 荷了 百和 青菰 再青 櫟翁 小舩

萬紅葉

相子やひそくしそ菊の氣
 くらん能くそ色なり菊の氣
 一ふりそ菊の氣なり菊の氣
 夏菊の氣なり菊の氣
 素菊の氣なり菊の氣
 くらんそ菊の氣なり菊の氣

山外
 杜鰲
 樂其
 里春女
 叩月

草紅葉

今朝もくハ水にツケまゝ
 草紙
 茶
 由

后月

ふてん——人小あそむく後乃月 ヒセン 眉山
 人小あそむく一も中分后乃月 イヨ 儿霄
 蓮池乃あそむくそ乃ち月 ナニハ 其山
 江——つる物ハあそむく后乃月 月芳
 入——んやあそむく后乃月 童産
 七——んやあそむく后乃月 青藝
 表響は乃るやあそむく后乃月 百丈
 疎者乃配乃利あそむく后乃月 蓬流
 室もあそむくあそむく后乃月 シヨ 叢
 后乃月あそむく大根あそむく 空齋
 大根あそむく——氣のとき后乃月 完仙
 日あそむくあそむく后乃月 梅室

舛市

賣——れ小あそむく舛乃月夜在 芦窓
 あそむくあそむく入るあそむくや市舛舛 里者女

秋霜

露霜

秋霜や石——あそむくあそむく 獲物
 露霜やあそむくあそむく月夜在 梵阿

今丰米

新蕎麦

雪月や永くあそむくあそむく——米 ミカ 文青
 新蕎麦やあそむくあそむくあそむく 草廬

増居——んやあそむくあそむく秋の暮 由誓
 秋の暮あそむくあそむくあそむく 風朗

秋暮

夕陽の影に山家や竹の秋の聲 サマ 素秋
 辻を乃おふふとくや秋のくき ナニ 確堂
 居直れハ氣持あふぬ秋のくき 下毛 可年
 用のふいんれふとくやあれたの聲 エチ 應泉
 手とくむやつゝ急のうへ乃秋の夕 サシ 青夢
 一昔帯兄遠く小家や村の夕 大鵬
 ふとふふそはあやふき秋のくれ 谷鳩

暮秋

け秋や人乃あふとむ紫 至 溪翁
 り秋や一まん瘡かきつゝた 大鵬
 起るふれいふく陣や暮れ秋 双
 り跡をふれいふく 月芳
 淡柳のちいさくありぬ ナニ 雪女
 中く秋や風の候を乾くや ナニ 卓生
 暮秋の句 ナニ
 龍をつゝさみ出 至 大梅

九月盡

七重あや太根くけの九十九
 鳴りれ秋くくくは垣おくは 運流
 山麓のくくくはくくや九月 芦窓
 花葉の休あくくあり九月 南枝
 山吹れくくくくく九月 雨兆
 暮れくくくくくくく 五株

阿列南古庄

七明堂信樂



發句秋之部終

冬之部



溪齋撰



初冬

十月

初冬此のころ小あり 千里二月月 松什
まづきやかきふわと来新山へる 馬堀
まづきや陳子ゆれはききる 百丈
初冬や田乃 片ききれあきふ 餘力

初冬や 巫女乃 小塔や神無月 卓池
山物はあきふ 小くは神無月 呉城
十月乃 出境 吹新 聖樂改 其山

その事れくあら十月に雪ふれ
十月や小袖くるみの細きり
十月や忍びのへしに柳の原と
嵯舎 仁宝 禾木

小春

ひしやまを柿よりおとけ小春来
氣をきりけりきりもあれ小春来
弦きりけり口せはきり小春来
春をきりきりきりきり小春来
藤乃あけ小春かきりきり小春来
白壁乃 漫むきりきり小春来
きりきり入る咀のきりきり小春来
油衣をきりきりきりきり小春来
女柳 櫛翁 遅流 鵬居 寸長 松

初時雨

きりきりきりきりきり小春来
藤乃あけ小春かきりきり小春来
白壁乃 漫むきりきり小春来
きりきり入る咀のきりきり小春来
油衣をきりきりきりきり小春来
卓池 樓翁 鬼雄 荳水 かつ女 草廬 月窓

城よりや初くうた一時^{トサ}る 萱崖

緯乃柔山枯木と信ふ時^サるなり 獲物

吹雪の中時^サるるをわかれざる 卓堂

時^サる——とるくふく之をうゑ 羽人

——とるやましく難木の山つた 流芝

及多け八日の重なりをく時^サるなり 柴人

あふれやまけふは——満思さ 氷狐

時^サる——とる乃日あふれ宿屋なり 義香

を妻、荷山——とるや途入口 大鵬

くつ路いとおふる乃——とるなり 芦窓

山あふれとるなり——とるなり 百丈

眠くれぬ癖をうつる時^サるなり 風外

思むたふあをかりある——とるなり 為山

ゆきとるやいふるふ並れ時^サるなり 溪翁

い——とるれをうて又踏ふ垣根なり 遅流

く九折や裏口——とる乃月^ハ 巴中

山多れ一羽はあふれゆなり 利秋

時^サるゆあふれや灯を可袖の雲 生宜

棧乃——とるふれある時^サるなり 月芳

時^サるゆけあふれ乃ぬく垣根なり 荷了

立多れなり——とるゆ時^サるなり 青猗

時^サる——とるなり通乃捨なり 西介

櫓とちあふれなり時^サるなり 蒼虬

時雨

山より降る雨あめをこゝろを時る
 早々れと打をはききききききき
 牛都屋のやをいふつまる時る
 古国士意をいふつまる時る
 説法もあはれいふつまる時る
 日たふれてふりていふつまる時る
 寺町ハ赤むくききききききき
 初手ふれいふつまる時る
 南五北実ふりていふつまる時る
 園あつる海苔あつる秋の時る

車池
 振子
 卓郎
 沙鷗
 杜有
 淡叟
 卓堂
 鋤秋
 霞雲女
 竹烟
 三巢
 宜稻

時るるもききききききききき
 戸を摸ふもききききききき
 沖あけの雲一ふりて時る
 一面りてききききききき
 楓いふつ出ききききききき

梅令
 呉城
 完伍
 笑山
 方有

やむ時よききききききき
 あくききききききききき
 あくききききききききき
 あくききききききききき
 あくききききききききき
 あくききききききききき
 あくききききききききき

沙鷗
 月底
 風升
 卓郎
 素秋
 月窓

風

冬々

〰〰〰 也手書入さ所る作す小屋 ミカハ 柘二
 お〰〰 也秋小吹うつる強きとめ、 完伍
 お〰〰 也力能ぬき ヒタチ 夕明里 秋成
 〰〰〰 也日は暮るぬ テハ 以つる 柘洲
 あり〰〰 能やむや山あふ人の影 山外
 お〰〰 はやぬいづまゝ 暁の水 溪富
 あり〰〰 也通れとあるは ミカハ 里 呉城

冬々れ能中ふふ魚と〰〰〰 風樓
 冬々々 也透百れ出来 ミカハ 一松穀垣 宜芽
 冬々れ 也古皆し ミカハ 〰〰〰 〰〰 溪富

霜

新霜や〰〰〰 〰〰〰 也たけ初霜 護物
 わや〰〰〰 〰〰〰 也毎々 ミカハ 〰〰〰 〰〰 鳳朗
 初霜や〰〰〰 〰〰〰 也ぬ板 ミカハ 〰〰 氷孤
 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 方有
 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 逸洞
 新霜や井戸 ミカハ 〰〰〰 〰〰 木
 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 月底
 松杉の本の百 ミカハ 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 青鷺
 枝の擗乃 ミカハ 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 由之
 踏や〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 嵐夕
 霜は ミカハ 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 柯亭
 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰〰 〰〰 里春女

さわく君さわくぬ枝よおれ 葉 梅室
新葉や新葉の煙のちり 葉 為山
新葉や新葉の煙のちり 葉 卧息
明かる枝のや志路 月花雲 芦窓
阿ーまた流るるみく煙れ 桃香
新れ戸や新ハ凄うきくあの方 味舎
松の本を堀しあけり新ハ和 菊亭
大葉や琉球芋枝かきく新ハ 三巢
そはきく枕しちり新ハ餅 百丈
新ハくめてきくきくぬ煙け 未足
垣乃新ハくきくきく煙け 溪齋

冬空
冬川

冬空のしんはおり守鳥くれ 氷明
雪新うきは先られき冬川 竹煙
とけくきく新ハあきく冬川 大鵬

冬山

走りの杖本るくそあゆの山 見外
ひく口く雑本くあや冬山 双鳥
曇くくきくはかきく冬山 巴中

冬く母ま小多れみある状便 雄
甚火く煙おきくきく冬山 雨兆
蠅を追ふ葉扇も張く冬山 青誓
新起ゆきくきく冬山 仁室

冬月

人れ氣のあひ四辻や冬月イヨ 器推
 古木つむ花のうし路や冬月 桃多
 足是乃星はくくや冬月 天掬
 月めく彩もくつふ冬月タニハ 俵瓜
 裸木ハ風もさほく冬月ミカハ 拓二
 杉枝る若くあきく冬月 草廬

土偶人のゆふふとむく冬月 遅流
 冬たもれぬのうまたる 磯あき
 立席あくく立れぬさむしれ 梅裡
 冬くくつふ宿の冬や 丸行燈
 紫衣あきく冬や 生宜

寒

石あきれ冬ものうし路の冬上毛 木公
 あきれ冬あきく冬た途中アハ 青薺
 人形の彩くたつふ冬月 月芳
 日わたる冬あきく二度冬 冬我
 冬りれハ冬あきく冬や垣まはる 三巢
 冬やさむく冬く冬あき月 茶静
 油手もあき冬あきく冬月ミカハ 丈轉
 灯をむけハ秋の冬あきく冬月タニハ 山公
 入月を下り冬あきく冬月 完伍
 冬あきく冬の冬あきく冬月 船志
 烟く冬あきく冬あきく冬月 碓嶺

楯

楯の空にうし海なるをね更け 芦窓
 手斧をけけしるふ君を楯火に 月芳
 明ちの九龍を楯乃くをくれ 叩月
 楯くちをれ烟をくあふ量く菊 鬼雄
 長きやふ難ふふまゝに楯火を 素秋
 牛部屋の内にけくちをり楯のり 嵐竹
 可士くをの楯くちをり楯をくぬ 完伍
 舊れ火をくちをぬ出を楯中をれ 一嘯

起きく木枕をくきく炭火を 卓池
 庵の戸へく引くむや炭二俵 香子
 ぬくや炭くまはるる老の友 叩月

炭

炭くくはく魚の鱗や炭のり富 五後
 炭くくあて火をくく人の代りや 几藤
 子通くくおねをくあくくく炭 蒲堂
 来る人ふ炭つたをくちをくぬ 冬代女
 炭組くくさつと押ぬる座敷を 西介
 炭あくる机のくくへくあまゆを 再青
 炭ふやかれぬをくあまゆを 溪翁
 ぬき出せるくくあまゆを 炭 俵 鳥津
 岸地ふと手れ薪やねと炭 岱年
 わくくく炭かりふく隣くぬ 里春女
 からあくくくや炭のおくり除 宜菜
 戸のきハ焼つたふくぬく炭 梵阿

埋火

うハ消乃ち火の傍る粉炭也 定位
能掃く一寸と炭焼て餅うり也 茶静
炭うりの傾城うりまで知れり 芦窓
何れ本とあるこの炭のときわたり也 由誓

埋火れ手隙をつくはしきり 嵐外
埋火や手をかきくはかき投を 呉城
新まふ埋火れ炭あひしり 魯心
埋火や和風の通ふ庭れ外 由之
埋火や大なりかきあるなり 下毛
埋火やふり中ふりむ 世帯 仁室
埋火やせきあるく 仕舞なり

團炭

新まふく 團炭の宛のふり

叩月

火桶

これ凄く火桶ふいつれ魚の骨 大梅
戸のれハおろし新さす中掃ふ 卓堂
たもぬのふきや掃く 相中掃 溪齊

火鉢

手を返してちきり火鉢式 菊人
持て返くあきり掃ふや火鉢 大勝
何れも火鉢うり新 火鉢 碩布
乳喉の掃除きり火鉢 百和
家れあきり火鉢 火鉢 溪齊

巨燵

出たあそをふくくも巨燵おほひれ 梅室
 巨燵あくく何き用外 一 雪さくし 梅裡
 待し居ぬも燵さゆや川春の家 羽人
 猫のふくくあそふも巨燵さ 月芳
 後くく秋の更てあふくく 汀砂
 余はくくあふれきくく巨燵のれ 由之
 あふくくあふくくあふくく 月窓
 多れあふくく啼やふ燵のくく 青莪
 あふくくあふくくあふくく 水明
 燵の記ふくくあふくく 再青
 ひとあふくくあふくくあふくく 濤く
 ねあふくくあふくくあふくく 欽哉
 新へあふくくあふくくあふくく 乙良

湯婆

障子あくくあふくくあふくく

茶静

蒲團

つみくくくくくくくくくく 楓下
 酔さくくくくくくくくくく 再青
 ねくくくくくくくくくく 確堂
 ねくくくくくくくくくく 遠洞
 出くくくくくくくくくく 乙彦
 授出くくくくくくくくくく 永久
 房くくくくくくくくくく 可年
 愛くくくくくくくくくく 波文

紙衣

留まればは素盤ふれはる紙子衣
 若くは山を家一庭のかみあられ
 先肩へふくくふかれふみくうれ
 葉畑一歩くくふあられふ子衣
 魚市乃中を新くかみあられ
 節之 芦窓 抱儀 撲翁 宜稻

頭巾

頭巾脱くあられは汗や坂のく
 家うけのうれをきり中衣
 振さうれ強たをわのむ中衣
 梅室 悠く 九興

食 親のめく風は通もや食あ〜カヒ 欽哉

綿入

綿入くふ描乃あられ布子衣ミカハ 文青
 孫入くふ房〜わり老々孫 鷹布

口切

口切や埋本の多た古けら 溪島
 口切やあふみ乃 蕪呼味の柿 立宇

顔見世

顔見や萬福賣山立と海里 杜有
 顔見世や鴉乃うつる十寸鏡 奇縁
 顔見世や傘あふくうあふ傘ミカハ 蓬雨
 顔見世やひくく山骨

神迎

麴屋の門をくくあふ神むく 茶辭

神送

新
わ
れ
を
い
ふ
と
免
れ
神
お
も

完伍

神留主

起ぬはつぬかき守神の留と
 萩れくふおきしつゝあり神の留と
 神揃も湯留と免まきなり氣喘
 種屋の所と見ゆや生まゝ神の留と

杜寄董
有三水

玄猪

帆柱も松も栗の木の葉の里の
くさねあてふおきぬ玄措の粕も鯛

鳳樓
崔叟

達摩忘

遠く忌や此情て雲より月影の穴
さきふやあふもて重たき乃飯

彙流

世に及ぶや、水に及ぶや、
一に及ぶや、
知る

空角

十夜

人々みの如くい中ゆく十夜く
田はあふさふハ十穀乃のささ
方くは谷つ人ち穀十穀く
野はくくさ山穀く十穀
二如きは疎香さむた十穀
正面く兜乃乳ふむさる十夜

溪齋荷了三巢茶靜
卓堂

小者より世をぬかぬの志は在り
ちのくゝと教ふはよくて夷
産の相迫つゝ出るやふひを満

卓郎
荷了
淇石

夷講

重宝の船一すほるやふくま^{ヒウカ}儀 沙路
古けある屏風もありぬ夷講^{ヒウカ} 五木
ふきや医者れあふ夷あう^{ナニ} 卓堂

里神樂

里神樂をく、相ふはる^{サマ}里 大鵬
川上れ神樂をくゆる日あふ^{サマ} 青鷺
本儀ぬ^{サマ}里神樂、 素秋
汐汲く^{サマ}里神樂、 山骨

御取越

あふ^{サマ}御取越、再や^{サマ}御取越 得華
あふ^{サマ}御取越、再や^{サマ}御取越 又く
酒^{サマ}御取越、再や^{サマ}御取越 完伍
酒^{サマ}御取越、再や^{サマ}御取越 茶靜

時雨會

あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 梅室
月雪や九宗の糸乃一會式^{トサ} 萱崖
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 月芳
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 卓堂
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 素悠
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 溪翁
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 卧息
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 鹿白
あふ^{サマ}時雨會、再や^{サマ}時雨會 暹流

冬至

色之ぬ屏風乃松や冬至の日
梅室
獅子舞乃雪こわしり冬至日
谷鴉
石切のまじりる冬至日
雨兆
んくおいと明あふる冬至日
荷了

豊明

りあもきれあふる冬至日
碩布

袴着

袴着や一糸よりあふる女のみ
姫山
まの袴着ややうとあふる左著
正併

被初

あふるれれ白山黄あふるかつ初
完伍
河のまや白木の火あふる初
二五

寒入

いあーれ吉象あふる寒入
寄三
素とつあ畑乃りや寒の入
完伍

寒月

船や磯のれ寒月れ戸口寒
柯亭
寒月や雪ふりる寒月の陰
一雨
寒月や吹雪外ー寒月色
里春女

魚市や雪之紫雲乃とつあ
遅流
あふる小先乃る雪乃あふる桶
桃多
流きこむれ乃あふる池乃尻
春圃
張るうーる雪乃あふるあふる
宜菜
一氷とけそ雪乃あふるあふる
氷瓶

氷

氷柱

ある足ぬいゝあけり雪の聲 梅室
 氷をそそぐあられりありあ 卓堂
 かゝ風やまこけあるり田に氷 三巢
 聲入のいゝたゝあれ手あれ 茶靜
 ちふゝあれあれ 畔乃 梅令
 いゝゝと 柵 完伍
 ちゝからけ 免あやうと 柵路
 うつむけ 柵乃 庵子 淇石
 氷 氷戸の手を離ゝは 馬堀
 形 量を引を出ゝ 和風
 風 形を引を出ゝ 目菜
 我 百りゝゝ 大勝

寒念佛

鉢叩

イや一字二字つゝ 寒念佛 鹿白
 又ふゝゝあけらるゝ 念仏 仝
 百ありの音もやみ 念仏 由之
 飯ゝゝゝ 寺へゝゝ 念仏 箕山
 時 中々 念仏 大勝
 起ゝ居るゝは 念仏 波文
 町 並やゝゝ 念仏 百丈
 鉢 ありたあれ世の人 杜阜

寒聲

寒聲やゆもあさうれ唄のさき ナラコ 山公
ききうふもれ啼ゆ ナラコ 鹿白

鶯の聲いさゝやゆた乃家 風外
四破さきはいつこや秋乃雪 梅室
大雪や雪乃これ降かく寸 抱儀
あわさるる雪はあさうれ ナラコ 氷狐
うけるさ雪はあさうれ ナラコ 全
取出さや雪はあさうれ ナラコ 楓下
吹まはさ雪はあさうれ ナラコ 撲翁
藤原や止む雪はあさうれ ナラコ 来舎
あさうれ ナラコ 器惟

雪

風山や雪はあさうれ ナラコ 玄子
雪はあさうれ ナラコ 一幽
ゆくさ雪や北むく ナラコ 柳涯
南さ雪はあさうれ ナラコ 青薺
雪はあさうれ ナラコ 柳葉
雪はあさうれ ナラコ 宜菜
雪はあさうれ ナラコ 来白
降あさうれ ナラコ 几藤
日さうける ナラコ 完伍
戸さうける ナラコ 月貸
人さうける ナラコ 青檼
あさうれ ナラコ 水明

雪 雪やふのいふをたけ遠し 梅通
 乃るくふ雪の注来と来りき 里春女
 雪乃春は相油のうちや秋の雪 一雨
 大雪や降るつゝあふまる 文仙
 うし詠う 従ふく雪乃義 三星
 之業 踏むく雪や雪の橋 淇石
 雪つむや宵く 宵れやうてきた 梨長
 梅の雪乃いふかこゆりや雪得い 笑山
 秋の雪く 一日辰 深雪 茂推
 常く いたのきふありぬ雪 魚洞
 りさね 雪乃山 卓堂
 々れるや炭ひく法も雪乃門 遅深

雪車 機

雲

本峰をれあふ 居る雪れ林く 菊亭
 雪やや斧の火をんれ松の幹 宜稻
 秋の門乃目あふあるや雪丸 大勝
 毎賣乃麻買ふ人や雪れ 應泉
 友あ 雪乃つ 芦窓
 一雪はのついきぬ 秋牙 茶静
 雪車引く 匠者を迎ふ 月芳
 機やあせ 機乃紫メ 生宜
 紙の手にあつるや 五渡
 紙の手にあつるや 遅流

散

極みれあてあき乃ち^{ナニ}北^{ナニ} 祇^{ナニ} 白^{ナニ}
降出^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 姫^{ナニ} 山^{ナニ}
る^{ナニ}士^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 春^{ナニ} 室^{ナニ}
者^{ナニ}雪^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 廬^{ナニ} 布^{ナニ}
降^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 青^{ナニ} 誓^{ナニ}
乃^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 風^{ナニ} 樓^{ナニ}

冬雨

いとろ^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 几^{ナニ} 宵^{ナニ}
雪^{ナニ}一^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 月^{ナニ} 芳^{ナニ}
塊^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 蓮^{ナニ} 物^{ナニ}
鼠^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 施^{ナニ} 路^{ナニ}

寒雨

寒^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 悠^{ナニ}

納豆

呼^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 伯^{ナニ} 遠^{ナニ}
月^{ナニ}雪^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 叶^{ナニ} 月^{ナニ}
納^{ナニ}豆^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 西^{ナニ} 份^{ナニ}
納^{ナニ}豆^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 楓^{ナニ} 下^{ナニ}
鴨^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 末^{ナニ} 豆^{ナニ}
雪^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 槐^{ナニ} 堂^{ナニ}
河^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 柳^{ナニ} 涯^{ナニ}

風呂吹

華^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 西^{ナニ} 份^{ナニ}
風^{ナニ}乃^{ナニ}乃^{ナニ}者^{ナニ}乃^{ナニ}降^{ナニ}電^{ナニ}乃^{ナニ} 几^{ナニ} 藤^{ナニ}

于大根

于菜

鯉

生海蔵

大根下毛 于ぬうちかゝる九府カ 柳カ 水明
 鴉カ のいゝきりかゝる大根カ 柳カ 水明
 烟カ 叶カ のいゝかゝる于菜カ 柳カ 水明
 いちきりふきぬや坊カ 于菜カ 柳カ 水明
 とし株は于カ 于菜カ 柳カ 水明
 刺カ 裏カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 以カ とは法カ 鴉カ 目カ けゆるむ于菜カ 柳カ 水明
 叩月

来カ 少カ 乃カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 一本カ 乃カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 看屋カ 一呼カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 生海蔵カ えるカ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 三和

牡蠣 藥喰

飯カ むカ 今カ 止カ 于カ 妻子カ 于菜カ 柳カ 水明
 横カ 又カ 字カ 乃カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 梅室

河豚

北カ むカ 河豚カ いたれカ 于菜カ 柳カ 水明
 河豚カ の鍋カ 于カ 于菜カ 柳カ 水明
 喰カ けカ 後カ のカ 于菜カ 柳カ 水明
 河豚カ 于菜カ 柳カ 水明
 揚カ とあカ 友カ ありカ 于菜カ 柳カ 水明
 二度カ ぬカ 少カ 于菜カ 柳カ 水明
 傳カ 于菜カ 柳カ 水明
 河豚カ 煮カ のカ 于菜カ 柳カ 水明
 くらカ かりカ や河豚カ の光カ 于菜カ 柳カ 水明
 遅流

嘆やいね吹あらし山阿^{ムサシ}まかぬ花^{ハナ} 五渡
 ひらいたを蒼とゆへ流る人王^{ニタチ}む 千瑞
 日並とれたくや草^{クサ}も帰花^{ハナ} 義香
 ふつて倦む眼^メあらしの暗や人王^{ムサシ}む 楓下
 とゆへ日れさぬまやとぬり花^{ハナ} ^{サト}文仙

久しぬ里^{サト}底^{ソコ}に戸^ドめく落葉^{ラクエツ} 風外
 辻番^{ツジバン}やおち葉^ハ乃^ハ恙^{ヤス}くいく障子^{ショウジ} 月底
 落葉^{ラクエツ}のれくおち増^{マシ}ふくれ 為山
 さくおち山^{ヤマ}もさくぬ山^{ヤマ}底^{ソコ}の落葉^{ラクエツ} 撲翁
 多^タくつぬ戸^ドふちおちし落葉^{ラクエツ} 冬代女
 落葉^{ラクエツ}のれ所^{トコロ}あらしさへふきけり 三景

落葉

夕暮^{スヤクモ}やおち葉^ハのれく人^{ヒト}も吹^{フク}きけり 萬古
 通^{トウ}るるふく心^{ココロ}根^ネのあり落葉^{ラクエツ}のれ ^{チノ}山公
 おち葉^ハのれぬるるく心^{ココロ}根^ネのあり落葉^{ラクエツ}のれ ^{イヨ}凡宵
 まるるく心^{ココロ}根^ネのあり落葉^{ラクエツ}のれ 女柳
 葉^ハのれぬるるく心^{ココロ}根^ネのあり落葉^{ラクエツ}のれ 味舎
 追^{オヒ}おち山^{ヤマ}もおち山^{ヤマ}底^{ソコ}の落葉^{ラクエツ}のれ ^{エチ}萱水
 蒼^{サウ}口^{クチ}にかるあらしのれ乃^ハ落葉^{ラクエツ}のれ ^{カヒ}欽哉
 まくおち葉^ハのれありやあらしのれ 仁寶
 と入^{イリ}る落葉^{ラクエツ}のれありあらしのれ 梅室
 葉^ハのれありあらしのれありあらしのれ 獲物
 思^{オモ}つるあらしのれありあらしのれ 節之

木葉

枯柳

降木葉いさゝかみ小葉うき
 落つてくさく小吹多は木れさるれ
 つゞく唐の枝うきみく木葉うき
 惜しう伐落しあうき木葉うき
 吹とれ空や木れ葉とか人形層
 田氣も吹飛さるうき木葉うき
 ありあとも木の葉れうきの木葉さ
 日れ新葉進山うき吹とれ木葉うき
 月 底

抱あそぬ枝山おれうきやあね
 あしあぬもく種やうきり枯柳
 枯れうきもあねれおれ柳うき
 宜 和

枯れうき風俗うきあそぬ柳
 かき果てく老木とるくぬ柳うき
 續 鶴

散紅葉

掃わさくかくやきさくしう梅皮層
 ふしけくさくさく梅うき木葉うき
 しろはくさくさくあそぬ木葉さ
 柳れ木や木葉さるうきあうき
 あそぬ柳うきあけく眺あうき
 木もあそぬ葉中うき木葉うき
 溪 高

あそぬうき木葉さるうきあうき
 うきさくさく梅うきあうき
 全 堂 崖

孝
 子
 之
 弟
 也
 其
 名
 曰
 木公
 里春女

三葉

吳城

遲
泥

汕 蒼
騰 乳

萬柳得九柳桑應卓楓完南廡
古涯所起終桑門堂闕伍洋布

冬草

この月れふりまあたうき乃れ
まゝあゝあまゝゝあまゝあまゝ
あはれあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ

里春女
呂風
味舎
青柯

まのれあゝあまゝあまゝあまゝ
小坊まのれあゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ

逸淵
梅令

枯草

枯草やあゝあまゝあまゝあまゝ
うき草のあゝあまゝあまゝあまゝ
草のあゝあまゝあまゝあまゝ
草のあゝあまゝあまゝあまゝ
草のあゝあまゝあまゝあまゝ

得所
草廬
喜川
文仙

かき草やあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ

完位

冬木立

あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
人あゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
兄あゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ

全
崔叟
董水
水明
喜川
萬古

麦時

あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ
あまゝあゝあまゝあまゝあまゝ

全
三葉
味舎

ままたるりりあふもゆるもあふれ
ままたるりりあふもゆるもあふれ
立宇
下毛
楓関

大根引 溪堂 八人 氣も 枯し 多
蒼乳

一村の大根 ちたも 小川 ちた
竹を

るれ子 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
素秋

か勢人 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
蘭堂

引 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
再青

はきぬい ちたも ちたも 大根 引 ちたも
南

大根 引 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
青紫

あまのり ちたも ちたも 大根 引 ちたも
梅史
蓬宇

大根引

か ちたも ちたも 大根 引 ちたも
葛古

大根 引 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
業

え ちたも ちたも 大根 引 ちたも
水明

禁 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
卓堂

戸 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
恭我

や ちたも ちたも 大根 引 ちたも
溪齋

お ちたも ちたも 大根 引 ちたも
梅室

江 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
遅流

か ちたも ちたも 大根 引 ちたも
梵阿

ふ ちたも ちたも 大根 引 ちたも
大鵬

枯 ちたも ちたも 大根 引 ちたも
溪齋

枯 芦

冬枯

冬かきのもともやまふり寒れ山 永久
冬かれふさふさ山寺に破風 梅村

冬田

辰あふきは帯もあふる冬田 萬古
まらふふ近きれはく冬田 里捨

枯菊

花もさびしきかきれ小菊 梅裡
かれあふて寒くも菊の白し 二丘
うつむくもあふれや菊の白 一 嘯

水仙や筒れユ風 蒼虬
水仙のうきも寒くも水仙の白 端人

水仙

水仙の葉は狭入り 梅室
新都屋へさしたる水仙 竹堂
あふから活く水仙 萱屋
はあふる水仙 厘白

寒菊

寒菊や寒くも水仙 溪磨
寒くも寒れ水仙 完伍

冬牡丹

冬牡丹は寒れ水仙 再青
咲く牡丹の水仙 末白
冬牡丹 里春女
冬牡丹 芦窓

榧 卷

榧のむき本あき白く見え少く出ん

生 宜

石 落 花

戸袋をきけて伸るや石落のむ
おくれくく咲出くくゆや石落の花

杜 有
松 隣
雨 兆

枇 杷 卷

枇杷さくく知るるるり 青 枝
葉くくぬに風ゆくく枇杷のむ
あゆふさくくも葉くく枇杷の花
枇杷さくくや厨一進ゆく男初屋
垣骨にゆいこむ枇杷乃 華 奈

氷 孤
かつく女
里 春 女
鶯 阿
梅 曦
嵐 竹

葱

川 下 一 まきつくあきあ葱うけ
あきあき香や妻れ居ぬれ小鍋立
おれ葱くくれくくけく液ふりれ

又 人
端 人
萬 古

冬 椿

心くく咲くくいつまきくあき冬椿
山くく香はあき冬椿
生くくく常おくれやききき
と物くくききききききき椿

宜 菜
机 眠
依 瓜
梨 長
廣 布

冬 梅

おれくくれくくあきりや冬の梅

鶯 阿

雀もいりてさきはりのちゆり梅 芦窓

寒梅

寒梅やある宵とつゝたるをれ 助宣
寒梅やふとてぬくを花の經 宜稻
寒梅やかしくある能舞臺 大鵬
寒梅やをれ口をさるるを 梅令
寒梅や改めは恵乃咲くを 月芳

ハシキ

むつゝとて答中なるハシキ 草廬
まのれとてさるるをハシキ 月底
ふつとてさるるをハシキ 嵐外

細代守

手に汗を握りぬくをハシキ 荷了
村の灯も立はるるを細代守 逢雨
立寄るるをハシキ 柳絲
鐘の音も立はるるをハシキ 山公

紫漬

紫積やあつたをハシキ 田蓼
ふつとてさるるをハシキ 青柯
立退く一羽をハシキ 流芳
口にむくや枯葉をハシキ 夜白
浪々れくハシキ 芦窓
簾の毛もハシキ 風外

水鳥

水鳥やありかきつゝ 鶯歌山 芦窓
 水鳥やきしめあはれ 鶯歌山 三和
 水鳥やあはれあはれ 鶯歌山 卧息
 水鳥やあはれあはれ 鶯歌山 文仙

鴨

わさ鴨しゝ谷つゝ 鶯歌山 梅室
 降るれ池あはれ 鶯歌山 為山
 鴨なくや秋の聲 鶯歌山 祖御
 片羽一帯 鶯歌山 空鳥
 夕風や鼻をあらはれ 鶯歌山 百丈
 のどき 鶯歌山 大鵬
 のどき 鶯歌山 松什

鈴鴨

鈴鴨乃 鶯歌山 遅流
 鈴鴨乃 鶯歌山 宜菜
 鈴鴨乃 鶯歌山 木公
 鈴鴨乃 鶯歌山 芦窓
 鈴鴨乃 鶯歌山 青鷺
 鈴鴨乃 鶯歌山 應門
 鈴鴨乃 鶯歌山 鶯阿
 鈴鴨乃 鶯歌山 青柯
 鈴鴨乃 鶯歌山 恭我
 鈴鴨乃 鶯歌山 蒼虬
 鈴鴨乃 鶯歌山 月芳

吟鴨乃かあゝ以通る森是森 溪齋

箴鳴

さゝ啼や深やあゝ岩乃著 宜稻
さゝ啼や麦は初ゝ新とん温王 ミカ 蓬宇
さゝ啼や一束つるり豆乳かゝ ナギ 和風

木鬼

星ちとに月新漏り木鬼水面 運流
木鬼あゝや面ふゝゝ花谷地林 喜川
木鬼やまゝり却ゝ啼ゝ歌一歌ゝ 蓬宇
木鬼ゝゝおゝれゝゝあゝ子休ゝれ 可菓

冬雁

曉や新乃きゝんかゝゝ乃かゝ 樂哉

鷓鴣

朝夕ゝまゝ余はゝゝ志みゝゝ 茶靜
おゝあゝやまゝゝはなつや作 杜有
たまにまゝかゝゝゝゝむ作 桃香
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 碩布
みゝゝゝゝ通ゝゝゝゝゝゝゝゝ 百丈
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 廣布
石垣や何やゝゝ啼のゝみゝゝゝ 水明
鍋乃虎やゝゝゝはまゝゝゝゝゝ 寸長
えゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 草廬

白眼あゝゝゝあゝた亭れり象象 サツ 山骨

鷹

羽^ハのり^リも^モや^ヤ鷹^{トウ}の^ノ小^コ町^{チヨウ}姓^{セイ} 大^{ダイ}鵬^{ポン}
國^{クニ}西^ニも^モ初^{ハツ}む^ムぬ^ヌ鷹^{トウ}は^ハ旅^{リョ}鳥^{ニョウ}也^ヤ 梅^{バイ}室^{シツ}
鷹^{トウ}は^ハ来^キる^ル度^{タク}も^モお^オも^モや^ヤ松^{マツ}の^ノ音^ネ 五^イ木^{ボク}
心^{ココロ}と^ト傳^{ツタ}へ^ヘく^ク沙^{シャ}鷹^{トウ}の^ノ度^{タク}も^モ如^ニ 喜^キ川^{ケン}
拳^{ケン}も^モ鷹^{トウ}も^モ如^ニ水^{スイ}氣^キ味^ミも^モ如^ニ 叩^ク月^{ゲツ}

鳥叫

鳥^{トリ}叫^{ケウ}也^ヤ如^ニこ^コこ^コれ^レも^モ如^ニこ^コこ^コれ^レ 大^{ダイ}鵬^{ポン}
鳥^{トリ}叫^{ケウ}也^ヤ障^{サウ}子^シの^ノ破^ハも^モ風^{フウ}の^ノま^マら^ラ 山^{サン}骨^{ボネ}
鳥^{トリ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 一^{イチ}幽^{ユウ}
鳥^{トリ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 百^{ヒャク}丈^{サツ}
日^{ニチ}に^ニつ^ツき^キく^ク粒^{リツ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 飛^{トビ}竹^{チク}

冬蠅

霜月

霜^{スウ}月^{ゲツ}や^ヤ麦^{マク}の^ノ日^{ニチ}何^{ナニ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤ 山^{サン}骨^{ボネ}

師走

海^{カイ}あ^アる^ル如^ニ幕^{マク}は^ハお^オも^モ如^ニ師^シ走^{ソウ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤ 其^シ山^{サン}
雪^{ユキ}乃^ノあ^アる^ル如^ニ幕^{マク}は^ハお^オも^モ如^ニ師^シ走^{ソウ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤ 三^{サン}星^{セイ}
人^{ヒト}の^ノ心^{ココロ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 再^{サイ}青^{セイ}
も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 五^イ木^{ボク}
木^キは^ハ透^{スウ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 味^ミ舍^{シャ}
漆^{シツ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 大^{ダイ}鵬^{ポン}
羽^ハも^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 西^{セイ}兆^{テウ}
師^シ走^{ソウ}も^モ如^ニこ^コこ^コれ^レの^ノ極^{キョク}也^ヤや^ヤ如^ニ乃^ノ福^{フツ} 千^{セン}布^フ留^{リウ}

節分

怪さ付人乃うしうハき小けり
 豆をうけおれ太きくくおくこけ
 怪さくくさあつくくくや小晴りり
 夏うちや月小きあるきおくく
 空目くくおれおれくくくく
 嵐くくくくくくくくくく
 三景 蒼尾 可年 芦窓 青鷺 溪齋

煤拂

煤拂小おれまのくくくく
 煤拂也出まきくくくくくく
 煤拂也くくくくくくくく
 煤拂也くくくくくくくく
 煤拂也くくくくくくくく
 好古 紫人 几 完 梅

節季候

新先や梅くくくくくく
 梅乃木のかきくくくくく
 煤拂たあきくくくくく
 節季候やひくくくくく
 節季候やまきくくくく
 節季候やまきくくくく
 水明 右 伯遠

年市

田小くくくくくく浮世や年の市
 旅あけの買きくくくくく
 年市 悠 南 大 水
 横丁くくくくくく市

餅搗

かくれ家の藪小窓あり餅の香
手傳ひる親はうきやうき餅
餅搗や電うさぎ親のきこ
悠々 喜川 空齋

餅花

餅花やふく海——之是子の阿るく
 餅むやぬく嵐にふみくはく——
 呼入くふくきり小くま衣くまき
 先春にむけ咲きり衣くまき
 大鵬 月芳 芝石 遅流

夜配

壁より小窓のわらわやと忘
るる
大鵬
完

年忘

年暮

ある年をとるにちと忘れり
 結節つこー屏風はもや年の暮
 おれもちと居る年の暮
 入るはぬ杉のやれ
 霜ある端をたく火やとれ
 春もくちとぬ年の暮
 龜乃尾のみーかく年の暮
 馬 堀
 爲い
 家栄女
 叩月
 由之
 梅室
 全

行年

竹年也年々年此
 中々也物買ふ出れ
 行年也年々年此
 波文

待春

春近

古曆

札納
厄拂

惜年

年内

年木

同見

掛乞

麦く電里け春ちんとかりくれ
 美くしきと春ちん親子巾
 心もつかされや春ちんはるる
 春ちんも春ちん新や春ちんの花
 春ちんや花も春ちん大く春ちん
 鴨乃ちりも春ちん春ちん春ちん

卓郎
 廉布
 天極
 茶静
 淡豊
 柯亭

凡ちんにるる春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん

宜稻
 全
 魯心
 吏川
 全

市人や春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん
 春ちん春ちん春ちん春ちん春ちん

叩月
 西兆
 可半
 淡豊
 卓堂
 全
 為山
 南枝
 卓郎
 人々
 水明

大晦日

森史一あをひるくや大晦日 下も 可年
ふかへ乃あはれにあて年をふ 叩月
粗乃ゆるあへふりし大晦日 こまハ 蓬宇
午時正のふとー折毎や大晦日 梅史

大年

大ーや第ふとふ此春らふ海 月芳
大年やふ桶乃中のあはれふ 仁寛
大年やふとーメとれ一望あ 完伍

歳暮禮

八百屋ー母三法通の果物ふれ 五三州 旦松
いーの教ーも居乃果物あ 栗

除夜

除夜の鐘きーえぬ里山あふるし 青鷺
ーれ教やあをえふと起り炭 宜箱

年内立春

取ふーらふはーふや櫛れけ 應泉
芳ふや我紫の戸けーふ急 カ 柏奚
ふれあへかふふ居るや年の内 ヨハリ 桃鳥
かふふぬふれあふるしーれ内 サト 良談

俳諧夫木集發句之部初編

蜀旅

持歷未己亦昇湖上月

名月や眼より清のくれ、旅奴
奥よりゆくちやえや一尾乃旗
梅室 虚白

金澤留別

おもくも此道ふふふり流智のき
つとね名だの袖をわらうそ松任のゆいといく
梅室

眺かへうし海雲れ 花乃中 全

大聖古此府あり全昌古此物をもとる

自れははまら見れうつれ柳うね 全

蘇門

持膝事く吹やわらふふあ
香と枝乃くれ 一々や草枕 下毛 嵐齋 太光

湖東

自意ふ是やとほり 鳴乃うと 沙鷗

磯崎みく

近江中 藤て居るきと 如春れる 全

金湖堂

しに來くま紫つてもあま交の海 虚白
呂を窓縁ふ構をちくふと 瀧一毛

美に秋酒の表あの一や

かゝれ毛乃顔よりあきて春衣はし 遅流

和四峠あて湯嶽泊り嶽のうたをきく
袖あきめてあまの風を過しきり 鳳棲

仔細とあまの首途をえかきしる所をい
くふゆる所をわたりて 水明

これ木の葉のあまのうたをきく 水明
清路はかきとあまのうたをきく 卓池

新しき魚のうたをきく 卓池
水帆浦

程きく藤垣のうたをきく 波文
徳宗所大古

万葉を目ふあつてきく 梅室
洞下よりあまのうたをきく 梅室

孫青の火のうたをきく 卓郎
洞山安茶本

あまのうたをきく 梅室
白川の葉をきく

やうきとあまのうたをきく 卓堂
仔細の大木戸をきく

あまのうたをきく 墨馬
産野をきく

ちる新のうたをきく 全
梅室

葉柳や新のうたをきく 雨兆
あまのうたをきく

たが若角ふおとれ光るゆれ 叩月

葉若れ根ふさしや素石止る 卓池

言良山まく

若葉陰しやゆやなはしと常 悠く

岱来々首途をかくる

神しとゆふ夜とあけのれと 為山

泣き甲斐なふつれをかくる

うき籠もたれきしやや雲のむ 山外

お外ーおりに

かゝつてや若れあけのれと 溪齋

利根川舟中

あゝきはいともあはれ遠るれ 九渡

越路ゆく

割るあやふれしと遠る四の冷 叩月

伊香保乃沼

提ゆふにれ旅人とかたつとあ 氷狐

葉ま〜らるもあはれとて月 蒼乳

井出

草針をわきれと越ゆ秋の形 氷狐

雪れ色のこかれにうた乃や 平山

明雪や秋はまらるふ石二の山 全

白川ま〜

一と路不四極小あけや 會津笠 波文

うら粘も末廣うらや 碓氷 夷川

久々浦 二句

若磯や小うた 詠ふ 雨兆

岩屋や日く 詠ふ 全

人日相州三崎ふあそく 素明

梅まをんく 詠ふ 氷壺

那奈川より浦をわく

そらに 詠ふ 氷壺

梅まをんく 詠ふ 氷壺

裾山下

石蕨の葉れえ 詠ふ 全

は 氷

とくわ 詠ふ 氷

名所 舊跡

新膳

舞小壇屋も 詠ふ 梅室

長等山より 詠ふ

恙翁乃 詠ふ

吹入 詠ふ 卓池

法外

大原女の 詠ふ 溪齋

若堂ま 詠ふ 西月

我梅ん 詠ふ 蒼虬

苔清氷

むの疎きくさるを清くぬれ こは 彼文

いそ由ち江流西へ一のき流とてやうぬ

まはは麦のちをい こは 全

鳴つ

ゆふちやきつゆをぬれ大氣を 卓池

四飽七嶋

あはは秋のきくさるを清くぬれ こは 梅室

ゆゆくや揺るをぬれ こは 氷狐

あはは

あふむ金くねはあ こは 梅室

きくさるのきくさるを清くぬれ こは 梅室

きくさるのきくさるを清くぬれ

り春は茂の こは 蒼虬

首飾

月をむくお こは 谷旗

市川

麦れ種をつ こは 萬古

筑波

あきや こは 氷壺

磨針

湖ま こは 平山

宮城 こは 梅関

足 こは 槐堂

明堂や松ふんふれうし山 南枝
 かきけふやふれうし山 仁寶
 橋立や松うつてくわりる 鶯阿
 鳴れ清きうし山 犬轉
 猿橋のゆくふきうし月 谷猪
 海宵眺望

秋のふれうし山 九十九溪
 秋のふれうし山 入ぬつてくわりる 梅旭
 一ふりるふれうし山 九十九溪 碩水
 かきけふやふれうし山 秋の宵 天挺
 秋のふれうし山 九十九溪 虚白

之浦眺望

江のかきけふやふれうし山 秋の風 氷壺
 うハ風れ池う吹ふむ為ふれ 一馬
 隅田川のわきうし山 釣月
 門つてくわりるやふれうし山 梅室
 美中柳あきうし山 鳳朗
 上野
 あちうてくわりるやふれうし山 圭布
 君れ父や人をちうてくわりる 住法
 霞う浦

梅らうくくけりまき 神楽うり 為山

初午

任連堀や梅のむくく 杉乃幹 大梅

貴舟

をりむりも下吟れをるをくく 南溪

かこもたやきく家此あひくく 扇山

いつまくも此くくく 神崎山 南

赤城社

神さくくくく 庵き守蘇のむ 溪齋

任吉遠孫

ねくくをけくくく むやき阿く 梅室

釋教

詠谷

おふあきき佛の眼くれき 卓池

東福寺法會

金屏きくくあれくく 虚白

佛生會就ききき

我佛くくくや不ききき 仝

吉崎田房

うつくく法のきき 梅室

山寺

花のきき 龍仙やあれたの月 西月

うくく清文をあらわす寂寂れ 茶静
四方は葉のむくく壬生の初新也 仙老 南湖
儒家ゆく二句

うけずれなう風や夢れ花 為山
満のれもるやむ野や春れ月 全

如是経

まもよふ露のやうをけくえ来 汀砂

祝

新達の標尾ゆく

花う月歩ゆ入うをくた様ひる 美大 馬堀

亦太平

雷盆の音もあふけ町乃新 草廬

おれく

高蒲うち唾ちりあつる 奇 奇城

中をいさのつし海やめき海方のくくを

強くく玉海のそつてくくハくくわくくつて

とくにそきくくあふやめれ清走をかこみ

はゆく

時るも清もつてくそれあふめ 梅室

懐舊 述懐

浪花宮中之金

子此み之とせ、
 子此故、
 子名虎のむ、
 梅室

唐
ハ島
造
豊

去々波やひひる赤き鶴小寄才
西月

我もかろゆきや我本香一具
抱ひぬきけねも託信の
まろふ一人あふひ

引くを障子の埃や朝かすみ 浅叟

我亦勉力爲之
然亦春

しをかくはまをたぐりてふにいらさ月
そがれあゝいあらとくあるは唐大位人
りかたりてなるれあたまーきん

大 海

亭巖高素位

うゑふや、あゝ、はゝゝゝ、おゝゝゝ
全

病中

[illegible]

止渴

葉生為々葉能料々而能之乎 全

迴文

ちきりゆりもつけゆく深窓を
 築つみ——山の木の香や清水湧く
 永きるをちきり——門の老木を
 木つきのちきり代をとり新猿さ
 爲山 蓬宇 呉城 獲物

物名

二四六三十八七九一五
唐六三十八七九一五
蓬宇

隱題

風

尾を呈し、くちく、強一、風の張
呂城

四

以戸小電却一止在也之乃明
大梅

かやくと騎乃かきし海電飛 全

戲題

公羽

松の電々くあらず翁ふきり
梅室

三番叟

電々や考ふが如く飛 大梅

千歲

若草やいゝくそ渡をふれ給
卓郎

無常

をみよ川の舟に乗りて流るる身を
知らずやとて沈みぬるあそびをみる

芦花種ふきつる百も外あつた 遅流

柳也る身まのりやあつたに

くふ房るゝてあそびに雪解川 茶静

を遠望れ橋のとれたふりぬる 氷狐

足の手まのりやあつた

力あつたゆる袖や友へ流る 烏山

きふあつたの文月足と老母の手ま

あつたは

新やあつた袖ふはるゝ秋の雪 溪翁

八十歳の女は馬のあつたに

老きゝる乳とれき心とえゝる 遅流

古人のゝる身あつた此方ハ屋舎のあつた

己う身軽ハ古あつたあつたハ家

神りの時あつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつた大梅あつたあつた

桂のあつたあつたあつた 無張

戀

契戀

いとくゝと啼て枕する 飯茶 茶静

船君の楫さくく船て笑影の家 呂城
嫁乃びけは笑て竹や条橋唄 爲山

寄あ恋

かもしきりやもめとたたく歌代 全

持衣やきくさゆや新乃あふき安 由哲

寄重恋

重をさくめぬや園の条立むー 全

寄紙子恋

まこきりいづのむーの紙子恋 一具

雜

孤山をふふ花坊とむとる袋ふ外く

竹あくくともこ起さるる時自りね 下毛 水明

お外ーをりね

蒲巻引あくく新藤をくくく 無然

我子庵ふふ福あき屋ハハきくく 壁

うちむうひ座禅入定ふひくく 秋は秋

まきく袋の裾小眠くく 前後をくく

おかしき氣山耳ふ入さきハ何の用ふ山立

は彼の眼をふれぬ佛ふ似あれハ戯く

黙花と呼あーはき氣をくき黙藏他

他をきく黙花化きくく 黙花化きく

くは酒を穿ふ奴ふくく

つふやきりつふきりつふ炭火茶 遅流

下州

題風籜

題雲雜

塞翁馬

降
あ
と
れ
き
し
り
風
ふ
き
く
和
哉

草
廬

猶の糸は——ろみまをゆ——杜鰭 何曉

我家乃一
丁我之什
是也小酌
凉全

步水以培志つゝ致し於に邦こ全

[illegible]

まゝ 起ぬ 速 地を 色ぬ 却ゝ 又 全

松風小つて竹に響く
鶴の鳴く
雪靜



玉つ捲く人中うねれかつをうめ
 かく家も降ちるにあら小巻うめ
 ハ朝や横もけしむ花乃あひ
 致しつる身小きゆりぬ家時白
 横せれくつあけや鉢ふた
 相賣もまゝぬめうちそ花乃春
 子蔵や野に吹きそ一灰れ中
 吹きぬきゆりあるゆり去の風
 せほしあけをぬわきてきえそ
 最入や一机うめし小鶴乃啼
 しに新しきみあは梅のうめ

大良彦
 宣め
 柳受
 う丸
 全
 宣女
 里雪
 東光
 梅山
 全
 大良彦
 重改

大坂書林

尾州書林

江戸書林



河内屋茂兵衛
 秋田屋太右衛門
 堺屋新兵衛
 永樂屋東四郎
 須原屋茂兵衛
 須原屋伊八
 岡田屋嘉七
 英城屋人助
 山原屋佐兵衛
 浪宮屋新兵衛
 内子屋平兵衛板

日
 月
 年
 月
 日

